

事業成果報告書

[取組Ⅰ] 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 山口県教育委員会
2. 取組の名称 : 山口県小中一貫教育推進事業

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

本年4月に県内の設置率が100%となったコミュニティ・スクールの仕組みを生かして、地域ぐるみで子どもたちの育ちを見守り・支援し、9年間で一貫性のある継続的・系統的な指導を行うことにより、学力向上や中1ギャップの緩和など生徒指導の問題の解決を図る。

(2) 事業の実施状況

[取組Ⅰ]

■山口県小中一貫教育推進協議会の開催（年間2回）

①小中一貫教育の取組と課題

②カリキュラム・マネジメント

■やまぐち小中一貫教育実践発表会in萩

・萩市教育委員会及び萩市立小中一貫教育校 福栄小中学校の実践発表

■県内教育広報誌による小中一貫教育に関する取組の紹介

[取組Ⅱ]

■岩国市

・岩国市小中一貫教育モデル校連絡協議会（年2回）：Q&A集について協議

・岩国市小中一貫教育推進委員会（年2回）：基本計画・方針、ガイドライン作成

・岩国市小中一貫教育スタートアップ研修会：所管説明、講演会

・推進計画・推進方策・ガイドラインの策定

・リーフレットの作成

■和木町

・町ICT教育合同研修会（年3回）

・町教職員研修会「小中一貫教育におけるキャリア教育の進め方」

・先進校視察「小中一貫教育全国サミット」「京都教育大学附属桃山地区学校園教育研究発表会」への参加

■周南市

・周南市小中一貫教育連絡協議会（年3回）：モデル校取組紹介、講演

・リーフレットの作成・配布：小中一貫教育の意義・モデル校の取組

■萩市

・萩市小中一貫教育推進委員会（年4回）：モデル校の取組紹介、先進校視察復伝、講演

(3) 事業の成果

・先進校視察や研修会の開催により、他県、他市町の小中一貫教育の取組について多くの情報を得ることができ、モデル校における小中一貫教育の取組が進んだ。

・モデル校の取組や先進校視察の情報について、各モデル地域内で紹介され、モデル校以外の学校でも小中一貫教育について意識が高まっている。

・小中一貫教育に域内全体で取り組もうとする市町教委が増えてきた。

(4) 今後の取組予定

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、家庭・地域・学校が一体となって育てたい児童生徒像を共有するとともに、家庭や地域が学校の教育活動に対する支援を行ったり、児童生徒が地域のために貢献する場を確保してもらったりしながら、9年間継続して地域とともに子育てをしていく取組についての情報交換や、独自教科実施についての研修会の開催 ○モデル地域訪問：モデル地域・学校を訪問し取組状況を確認する。状況に応じ進行管理及び指導助言を行う。 ○山口県小中一貫教育推進協議会（年2回）：各モデル地域・学校に共通する課題について指導助言・講師を招聘した研修会、モデル地域・学校の情報交換・進行管理 ○やまぐち小中一貫教育実践発表会 in周南：小中一貫教育の具体的実践事例の県内全小中学校への情報発信 ○モデル校での実践事例等を紹介する資料を県内全小中学校教員へ配信 |
|---|

4. 取組 I の実績

(1) 取組のねらい

| |
|--|
| <p>各モデル地域の状況を把握し、共通する課題解決に向けた研修と各モデル地域の取組について情報交換の場を設定し、各市町における域内全域での小中一貫教育の取組普及を支援する。</p> |
|--|

(2) 取組 I の実施状況（平成28年度）

| | |
|-----|--|
| 4月 | |
| 5月 | |
| 6月 | |
| 7月 | |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察【宗像市・佐賀市】(8/2・3) ・先進校視察【呉市】(8/26) ・第1回山口県小中一貫教育推進協議会(8/29) |
| 9月 | |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第11回小中一貫教育全国サミットin武蔵村山【東京都武蔵村山市】和木町同行(10/21・22) ・先進校視察【神奈川・東京】岩国市同行(10/26/27) |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察【福井県】(11/17～19) |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察【廿日市市・宮島】萩市同行(12/2・3) ・先進校視察【京都市・大阪府】周南市同行(12/5・6) ・第2回山口県小中一貫教育推進協議会(12/28) |
| 1月 | |
| 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・やまぐち小中一貫教育実践発表会in萩(2/9) |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員向け教育情報誌「NewsLetter」により県内の教職員に取組を紹介 |

(3) 取組の成果

- ・モデル地域の取組状況に応じた、研修会や情報交換の場の設定ができた。
- ・9つの取組の視点を設定した。①9年間を見通した学校教育目標の設定、一貫性の確保②系統性・連続性を強化したカリキュラム編成・実施③学年段階の区切りの設定④小学校高学年における教科担任制、乗り入れ授業⑤異学年交流⑥特別支援教育⑦教員研修⑧コミュニティ・スクールの仕組みを生かした小中一貫教育⑨小中一貫教育担当者の役割
- ・学力調査の結果は正答率が上昇した市町と下降した市町が半数ずつであった。結果分析に基づいた継続的な取組に対する意欲が高まっている。
- ・モデル校の中で、小中一貫教育の最も重要な「9年間の教育目標」の設定と「9年間のカリキュラム」の作成に慎重な学校が多い。
- ・モデル校の中で、具体的な交流や合同行事、乗り入れ授業に取り組む学校が多い。
- ・小中一貫教育について域内全域で推進しようとする市町教委が増えてきた。

(4) 今後の取組予定

- モデル地域訪問：モデル地域・学校を訪問し取組状況を確認する。状況に応じ進行管理及び指導助言を行う。
- 山口県小中一貫教育推進協議会（年2回）：モデル地域・モデル校の実践の参考になる先進的な取組を行っている市町教委や学校の考え方や取組の紹介等を推進協議会で行う。
- やまぐち小中一貫教育実践発表会 in周南：小中一貫教育の具体的実践事例の県内全小中学校への情報発信
- モデル校での実践事例を紹介する資料を全小中学校教員へ発信
- 9つの視点に沿った各モデル地域・モデル校での実践
- 各モデル地域・モデル校での実践評価のための評価方法の設定

5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

| 通し番号 | 教育委員会等の名称 | |
|------|-----------|--|
| Ⅱ-1 | 岩国市教育委員会 | |
| Ⅱ-2 | 和木町教育委員会 | |
| Ⅱ-3 | 周南市教育委員会 | |
| Ⅱ-4 | 萩市教育委員会 | |

平成28年度 事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

| | |
|------|-----|
| 通し番号 | Ⅱ－1 |
|------|-----|

1. 市町村教育委員会等の名称 : 岩国市教育委員会

| | |
|---------|-----------------------|
| 住所 | 山口県岩国市今津町 1丁目14-51 |
| 代表者職・氏名 | 教育長 佐倉 弘之甫 |

2. 取組の名称 : 岩国市小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○義務教育9年間を通して、系統的・継続的な学習指導及び、生徒指導を行うことで、確かな学力、健やかな体、豊かな心の育成を図る。 ○「中1ギャップ」や「10歳の壁」など、学校種の違いや発達段階で生じる子供たちの不安や負担を軽減し、小学校から中学校への円滑な接続を図る。 ○幼児期から青年期までの児童生徒の活動を通じて、豊かな社会性や人間性を育む。 <p>その具現化のために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○岩国市小中一貫教育の立ち上げにあたり、モデル校と連携しながら、基本計画・基本方針を策定し、ガイドライン、Q&A集を作成する。 ○モデル校においては、中学校区で交流を加速化させるとともに、「めざす子ども像の共有」や「9カ年を見通したカリキュラム編成」に取り組む。 ○モデル校において、不登校児童生徒数の出現率を減少させる（前年度比-0.5%）とともに、児童生徒の学力向上（全学調平均正答率+0.5%）を実現させる。 ○「岩国市のめざす小中一貫教育」を市内に広く周知・啓発させるため、基本計画・基本方針及び、ガイドラインなどを活用し、スタートアップ研修会を開催する。 |
|---|

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成28年度）

| | |
|-----|---|
| 6月 | 岩国市小中一貫教育モデル校の指定（3中学校区：8校） |
| 7月 | 第1回岩国市小中一貫教育モデル校連絡協議会 |
| 8月 | 通津中学校区小中一貫教育研修会 |
| 9月 | |
| 10月 | 第1回岩国市小中一貫教育推進委員会（基本計画・基本方針、ガイドラインについて協議） 先進地・先進校視察Ⅰ（東京都：全国サミット） 先進地・先進校視察Ⅱ（東京都、神奈川県） |

| | |
|-----|--|
| 11月 | 先進地・先進校視察Ⅲ（広島県） |
| 12月 | 第2回岩国市小中一貫教育モデル校連絡協議会（Q&A集について協議） |
| 1月 | 岩国市小中一貫教育スタートアップ研修会（所管説明及び、講演会） |
| 2月 | 第2回岩国市小中一貫教育推進委員会（基本計画などについて最終協議） 山口県小中一貫教育実践発表大会 in 萩 岩国市総合教育会議（小中一貫教育について紹介） |
| 3月 | 岩国市小中一貫教育推進計画・推進方策・ガイドラインの策定 岩国市小中一貫教育推進事業に係るリーフレットの作成 |

（3）取組の成果

| |
|--|
| <p>○モデル中学校区を指定したことにより、校区の意識が高まり、モデル校連絡会議を開催したことで、岩国市小中一貫教育の推進計画や推進方針、ガイドラインについて理解を得ながら作成することができた。</p> <p>○モデル中学校区においては、「めざす子ども像」の共有や「9年間を見通したカリキュラム作成」の着手、「小中合同研修会や協議会」の開催を行うことで、小中の交流活動が活発化した。</p> <p>このことにより、教職員及び児童生徒の交流がより一層盛んになり、「中1ギャップ」・「10歳の壁」を意識した協働体制が構築された。</p> <p>○結果として表れた数値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上 モデル校の平均正答率（全国平均との比較）の上昇 全国学力・学習状況調査（国語） 平成27年度比 +0.48% 全国学力・学習状況調査（算数・数学） 平成27年度比 +1.18% ・学校適応 不登校児童生徒数の低下 不登校児童生徒数の出現率 平成27年度比 -12% <p>○モデル中学校区のみならず、他の中学校区においても、小中連携が充実・深化し、特色のあるカリキュラムづくりに着手している。</p> <p>○先進地・先進校視察を通して、各市及び一貫校の取組状況を知り、基本計画や基本方針の作成に生かすことができた。</p> <p>○小中一貫教育推進委員会に、専門家や保護者代表、地域住民を入れることにより、それぞれの立場からの意見を得て、基本計画・基本方針の策定につながった。</p> <p>○小中一貫教育スタートアップ研修会において、すべての小中学校に対し、「岩国市がめざす小中一貫教育」を提示することにより、広く理解を得ることができた。</p> <p>○本市はすべての小中学校がコミュニティ・スクールに指定されているため、横のつながり（地域連携）が土台となって、小中連携教育から小中一貫教育へのスムーズな移行につながった。</p> |
|--|

（4）今後の取組予定

| |
|---|
| <p>○今年度末までに、基本計画・基本方針、ガイドライン、Q&A集、リーフレットが完成するため、市内すべての学校に対し、啓発資料として情報提供する。</p> <p>○4月当初から、市のホームページに小中一貫教育に係るコーナーを設置し、市内外に広く啓発する。</p> <p>○モデル校連絡会議及び、推進委員会を定期に開催し、取組の評価及び点検を行う。また、各校のカリキュラムについて、検討する。</p> <p>○モデル校の取組の実践事例集を作成する。</p> <p>○長期休業中に、岩国市小中一貫教育研修会を開催し、市内すべての教職員及び、保護者、地域住民に対し、「岩国市がめざす小中一貫教育」について啓発する。</p> <p>○先進地・先進校視察（全国サミット）に参加し、先進的な取組に学ぶ機会とする。</p> |
|---|

平成28年度 事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－2

1. 市町村教育委員会等の名称 : 和木町教育委員会

| | |
|---------|--------------------|
| 住所 | 山口県玖珂郡和木町和木2丁目1番1号 |
| 代表者職・氏名 | 教育長・重岡 良典 |

2. 取組の名称 : 小中一貫型 和木小学校・和木中学校における和木学園構想の実現にむけて

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

「町ぐるみ『和木学園』」構想を実現させる。平成31年度のこども園開園に向けて、これまでの園小中の連携をより強固なものにする。また、これからの連携の在り方や様々な課題の解決に向けて具体的な方策を探る。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成28年度）

| | |
|-----|--|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回町園小中一貫教育推進委員会（今年度の具体的な取組について協議） ・第1回町CS委員会 ・町春季教職員総会（園小中全教職員参加） ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回町園小中一貫教育協議会（今後の方向性、具体的な取組について協議） ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回町ICT教育合同研修会（ICT活用、わきっ子授業デザイン） 【鹿儿岛大学教育学部教育実践センター 講師 山本朋弘先生】 ・町園小中合同引き渡し訓練 ・第1回町いじめ問題対策協議会 |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回町園小中一貫教育協議会（「英語教育」「キャリア教育」「ICT活用」を柱とすることを決定） ・町生徒指導推進協議会（わきっ子の健全育成について） ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回県小中一貫教育推進協議会参加 ・町夏季教職員研修会（CS3部会、教職員のメンタルヘルスについて） ・第2回町CS委員会 ・町教職員陶芸体験教室 ・町学校保健会 |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育全国サミット参加（先進校視察；武蔵村山市） ・第2回町いじめ問題対策協議会 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・町「教師の日」（園・小・中それぞれの発表） ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 |

| | |
|-----|--|
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回町ICT教育合同研修会（ICT活用、わきっ子授業デザイン） 【鹿児島大学教育学部教育実践センター 講師 山本 朋弘 先生】 ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 ・第2回県小中一貫教育推進協議会参加（一貫教育におけるカリキュラム・マネジメントの在り方） |
| 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・町冬季教職員研修会（小中一貫教育におけるキャリア教育の進め方） 【山口大学大学院教育学研究科 講師 藤上 真弓 先生】 ・町通学路安全対策会議 ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 ・県幼保・小連携担当主事連絡協議会参加 |
| 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第3回町ICT教育合同研修会（ICT活用、わきっ子授業デザイン） 【鹿児島大学教育学部教育実践センター 講師 山本 朋弘 先生】 ・小中一貫教育実践発表会参加（先進校視察） ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 ・第3回町いじめ問題対策協議会 ・京都教育大学附属桃山地区学校園教育研究発表会（先進校視察） |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・町スマイルルーム（適応指導教室）コーディネーター会議 |

(3) 取組の成果

| |
|---|
| <p>【各種研修会等の成果】</p> <p>①町ICT教育合同研修会<年3回開催></p> <p><第1回>公開授業・研究協議「ICT機器の効果的な活用による学力向上」</p> <p><第2回>公開授業・研究協議「ICT機器の効果的な活用による学力向上」</p> <p><第3回>公開授業・研究協議「ICT機器の効果的な活用による学力向上」</p> <p>・指導助言（指導助言者：鹿児島大学教育学部教育実践センター 山本朋弘 先生）</p> <p>※年間3回の研修会をとおして、「暗記型の授業から思考表現型の授業への転換」「子ども同士の対話を生み出す」等のALを支えるICTの活用を示唆して頂いた。各学年での目指す児童生徒像や指導事項等カリキュラムに掲載すべき事項について研修した。</p> <p>②町「教師の日」平成28年11月8日（火曜日）</p> <p>・式典・緑の風発表会</p> <p>・参加者：幼稚園年長、小学5・6年生、中学生、園小中教職員、PTA、町内教育関係者、保護者など約500名</p> <p>・内容：幼・小・中の合唱、中学生ホームステイ実施報告、中学生英語スピーチ発表、町ALT発表、幼稚園職員による取組発表等</p> <p>・和木町の幼小中の教育の成果を発表すると共に、今後の課題について確認する機会になった。</p> <p>③町教職員研修会</p> <p>・指導講話「小中一貫教育におけるキャリア教育の進め方」（指導助言者：山口大学大学院教育学研究科 藤上 真弓 先生）</p> <p>※キャリア教育の概念を含め、小中一貫してキャリア教育を推進していくための基本的な考え方を園小中全教職員で共有</p> <p>【先進校視察の成果】</p> <p>①小中一貫教育全国サミット（東京都武蔵村山市）：平成28年10月21日（金曜日）・22日（土曜日）</p> <p>・小中一貫教育を推進の方向性が確認でき、その後の会議や取組の、各園・校の主体性につながった。</p> <p>②小中一貫教育実践発表会（萩市立福栄小中学校）：平成29年2月9日（木曜日）</p> <p>・福栄小中学校の「小中9か年の指導計画」は、その後、町園小中一貫教育推進委員会でも参考例として取り上げられ、平成29年度の取組として「英語教育」と「キャリア教育」について作成することが決まった。</p> |
|---|

③京都教育大学附属桃山地区学校園教育研究発表会（京都府京都市）：平成29年2月3日（金曜日）

・全体会 ・公開保育・授業 ・研究協議

※学校段階のつなぎ目にある段差を、飛躍のための段差や発達を促すための教育資源として「段差」として活用

【その他の小中一貫教育に関する取組の成果】

①「和木学園勉強週間」

・中学校のテスト週間に合わせて、小学生も普段ならテレビを見る時間やゲームをする時間に兄弟姉妹そろって勉強に取り組むことを促す。

※「がんばりカード」を作成することで、家庭でめあてを設定し、学習時間等について家族で振り返る場を設けることができた。「一家で勉強した。」等、好評を得た。

②小学生による中学校生活（授業、部活動）の参観及び体験

・中学校の教科教室型の教室で、町ALTによる授業

・心磨き清掃体験 ・部活動体験

※体験を終え、小学生や小学校教員からは「中学校では、掃除を無言で行っている。」

「小学生が、授業前に黙想をするようになった。」等の感想が寄せられた。小学校から中学校の「段差」を教育的資源として活用することができた。

③全国学力・学習状況調査、山口県学力定着状況確認問題

| | 小3 | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| 国語 | +1.0 | +2.8 | -6.4 | -6.0 | -1.8 | -2.3 |
| 算数・数学 | +1.6 | -0.9 | -6.2 | -4.5 | -7.0 | -1.0 |

学年によって学力結果や変容について差がある。この差を埋めていくことが課題である。

④問題行動等調査（いじめ、不登校）

・いじめの認知件数については1・2学期通じて変容はない。教職員のいじめに対する感度を高めることは課題である。

・不登校児童生徒については、減少傾向が見られる。確実にSSWやSCと連携を進めることができ、3学期には中学生の2名が適応指導教室への通級につなげることができた。日頃の小中での連携が生きており、様々な角度からのアプローチができた成果と言える。

(4) 今後の取組予定

① 英語教育の充実

・常駐しているALTを活用し、園小中全てでの外国語活動や英語科授業等を効果的に行いたい。新学習指導要領の実施を見据え、小学3年生～4年生の外国語活動にも対応しておきたい。幼小中をととした英語教育のカリキュラム及び、接続期のカリキュラムを作成する。

② キャリア教育の充実

・平成30年度に園舎建替事業が完了し、平成31年度には幼保連携型認定こども園がスタートする。それに合わせ、小・中学校も併設型小学校・中学校の小中一貫教育を推進し、中学校の教科教室型校舎を生かした一貫教育に取り組む。
・具体的な取組内容として、幼小中をととしたキャリア教育のカリキュラム及び、接続期のカリキュラムを作成する。

③ ICTの活用

・本町では、平成27年度までの整備で第2期教育振興基本計画で目標とされている環境整備を完了しており、ICT機器を活用して、よりきめ細かな指導・授業改善に取り組んでいる。
・具体的な取組内容として、今後も引き続き「和木町ICT教育研修会（年8回、小中交互に授業公開）」、「和木町ICT教育合同研修会（年3回）」、「ICT支援員の活用」を行っていく。

④ CS、園小中一貫教育、和木学園構想をリンクさせた会議の精選

・昨年度、園小中一貫教育を推進するにあたり、これまでの「園小中合同主任会」を「園小中一貫教育推進委員会」として新たに展開するなど、業務改善を踏まえ、より効率的な会議の精選に取り組んできた。
・今後の具体的な取組内容として、現在、町CS委員会やその他の会議等を「和木学園」構想とリンクさせて更なる精選を図っていく。

平成28年度 事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ - 3

1. 市町村教育委員会等の名称 : 周南市教育委員会

住所 : 周南市毛利町2丁目2番地
代表者職・氏名 : 教育長 中馬 好行

2. 取組の名称 : 周南市小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

| | |
|-------------|---|
| 【目的】 | ・児童生徒の学力、いじめ、不登校等の諸問題を解決・改善していくために、地域と一体となって小中が連携して9年間の連続した取組の在り方について研究する。 |
| 【内容】 | ・各モデル校において、やまぐち型地域連携教育を基盤に、小中学校の学校運営協議会委員や教職員で9年間を通して育てたい「子ども像」を共有し、その実現に向けて「共通実践できる項目」の精選や「地域や校種で連携・一貫した教育活動の設定」、「学校評価づくり」を行うことにより、児童生徒を地域ぐるみで育てていくとともに、児童生徒にとってギャップの少ない継続的な教育の在り方を模索し魅力ある学校を実現する。 |

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成28年度）

| | |
|-----|--|
| 8月 | ■第1回山口県小中一貫教育モデル推進協議会への出席（8月29日） |
| 9月 | ・各モデル校区において、9年間を通して育てたい「子ども像」について協議・共通理解を図る。その具現化に向けた発達段階に応じた目標や取組内容、組織体制等を確認する。 |
| 10月 | ○第1回周南市小中一貫教育連絡協議会（10月25日） ※事業概要説明、小中一貫教育の意義について説明 ※児童生徒の実態、今後の取組について協議・確認（各モデル校区） |
| 11月 | ○第2回周南市小中一貫教育連絡協議会（11月29日） ※「やまぐち型地域連携教育の集い〔周南地域〕」と合同開催 ※モデル校区（和田小学校・和田中学校）の取組・成果・課題発表 |
| 12月 | ■先進校視察（12月5日箕面市～6日京都府） ※小中一貫教育に取り組んでいる学校を視察することで、周南市の小中一貫教育の方向性を探った。 ■第2回山口県小中一貫教育モデル推進協議会への出席（12月27日） |
| 1月 | ○リーフレット作成検討委員会 ※各モデル校の具体的な目標、取組、成果等について ○次年度モデル校区（富田中学校区・鼓南中学校区）への説明 |
| 2月 | ■やまぐち小中一貫教育研究協議会（萩地域）への出席 ○第3回周南市小中一貫教育連絡協議会（2月23日） ※市内の全小・中学校の管理職及び小中連携担当者が出席 ※各モデル校区の取組発表、小中一貫教育の意義について説明 ※島根大学から講師を招いて、小中一貫教育について講演 |
| 3月 | ○リーフレット配付 ※周南市の小中一貫教育の取組紹介（モデル校区の取組） ※小中連携教育と小中一貫教育の違いについて啓発 ※市内小・中学校全ての教職員に配付 |

(3) 取組の成果

○第1回周南市小中一貫教育連絡協議会（10月25日）の開催
・小中連携教育と小中一貫教育の違いや、小中一貫教育の意義について説明を行ったことで、モデル校区担当者が取り組むべき方向性がはっきりした。（9年間を貫く教育目標の設定、学習規律や生活規律等の設定、地域との連携等の重要性について確認）
・各モデル校区同士が児童生徒の実態や取組内容の情報共有を行ったことで、先進的に取り組んでいる中学校区に刺激される形で、取組の標準化が進んだ。

○第2回周南市小中一貫教育連絡協議会（11月29日）
・県内全域から参加者を募った「やまぐち地域連携教育の集い」と合同開催を行ったことで、地域と連携した小中連携教育や一貫教育の在り方について考えを深める場となった。
・モデル校区である和田小学校・和田中学校が事例発表を行い、地域と連携した小中一貫教育へ向けた取組や、9年間を見通した教育目標の設定・カリキュラム作り等について説明を行ったことで、小中一貫教育に向けた機運が高まった。
・講師として招聘した京都光華女子大学准教授の西孝一郎氏の講演で、小中連携・一貫教育の定義、コミュニティ・スクールとの協働、小中一貫教育推進のイメージ等について話を聞くことが出来た。学校を支える学校・家庭・地域からの参加者からは、小中連携から一貫教育に向けた道筋がはっきりしたといった感想が出された。

■先進校視察（12月5日箕面市～6日京都市）
・本市小中一貫教育モデル校区の代表者及び市教委担当者が、12月5日に箕面市立とどろみの森学園、12月6日に京都市立御池中学校をそれぞれ視察した。街づくりと一体的に進めている小中一貫教育について、施設面での充実ぶりに驚かされる一方で、小中一貫教育校として確かなカリキュラムに基づいた9年間の系統的な教育の在り方に触れることで、本市における小中一貫教育を確立していくうえで大変参考になる視察となった。この視察後、各モデル校区において、学習規律や家庭学習の手引きなど、9年間を通じた学校や家庭生活における育ちのカリキュラム作りが一気に進んだ。

■やまぐち小中一貫教育研究協議会〔萩地域〕への出席（2月9日）
・萩市立福栄小・中学校で行われた小中一貫教育研究協議会には、本市から、今年度のモデル校区から7名、来年度のモデル校区から9名の教員が参加した。山口県で唯一となる小中一貫教育校で育まれる子供たちの姿や、一貫したカリキュラムに基づいて、小中学校の教員が一体となって指導にあたる姿は、これからの新しい教育の形を示しており、一貫教育のもつ成果の部分強く感じ取ることができた。また、全体会で提示された福栄小・中学校の様々なカリキュラムは、これから作成を行う本市のモデル校区にとって、大変参考になる先進事例で、この協議会を通して小中一貫教育への機運が更に高まったと言える。

○第3回周南市小中一貫教育連絡協議会（2月23日）
・市内の全小・中学校の管理職及び小中連携担当者が出席し、「小中連携教育から小中一貫教育へ」とテーマを掲げ、モデル校区の取組として、住吉中学校区及び和田中学校区が今年度の小中一貫教育に向けて創出した先進事例を発表した。また、島根大学から特任教授の木下公明氏を招聘し、鳥取県で初めて小中一貫教育校となった「湖南学園」の校長として陣頭指揮に当たった際に、様々な教育活動を通して感じた成果や課題について講演していただいた。参加者からは、小中一貫教育を進めるにあたり、どんな成果や課題があったかイメージが沸いたといった声が聞かれた。

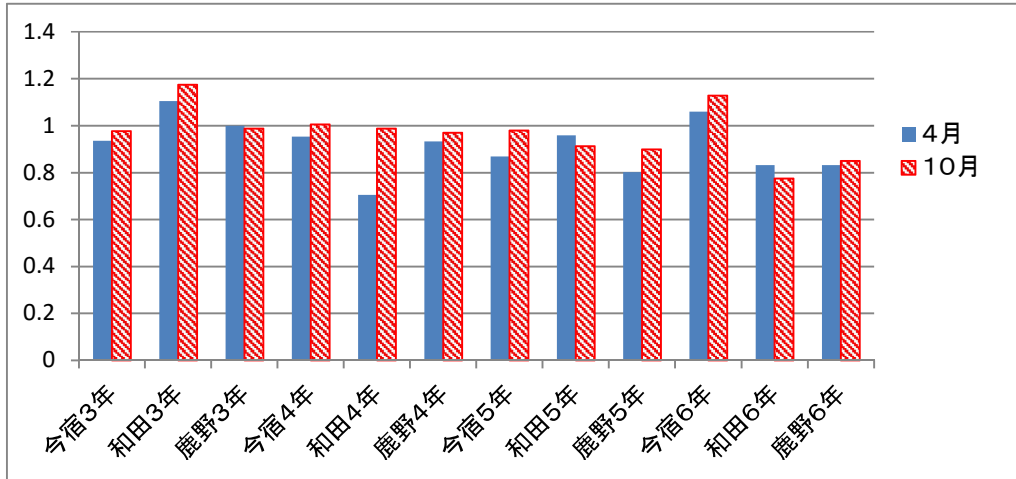
○周南市小中一貫教育推進事業に係るリーフレットの作成・配付
・周南市の目指す小中一貫教育の在り方や、本年度のモデル校区の取組をリーフレットに記載し、市内全教職員に配付することで、小中連携と小中一貫教育の違いについて理解が深まり、小中一貫教育を行うことのよさが市内全域の学校に伝わった。

【全体的な成果について】

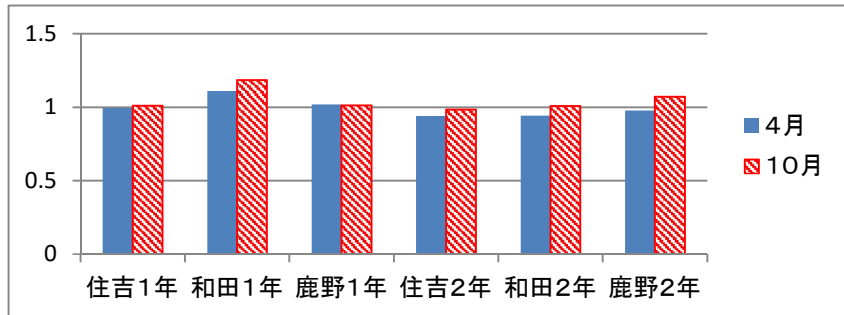
(1) 調査結果から考えられる児童生徒の変容について

・本年度、小中一貫教育推進事業をモデル校区として行った学校では、概ね学力が上昇するという結果が得られた。4月に行った全国学力・学習状況調査と10月に行った山口県学力定着確認問題を評価のツールとして、山口県平均を100%とした場合、以下のような結果が確認された。小学3年生から中学2年生までの国語・算数（数学）の総合結果を棒グラフに示している。9年間を通じたカリキュラムの編成により、児童生徒のつまずきをとらえた効果的な指導を、小中学校の教員が計画的に進めた結果と考えられる。

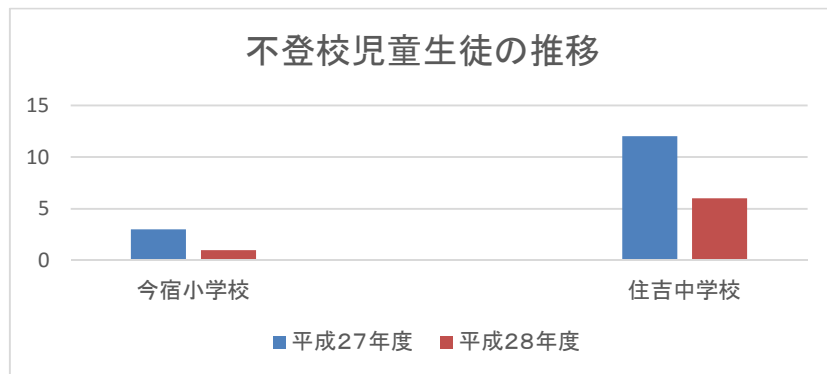
〈小学校〉



〈中学校〉

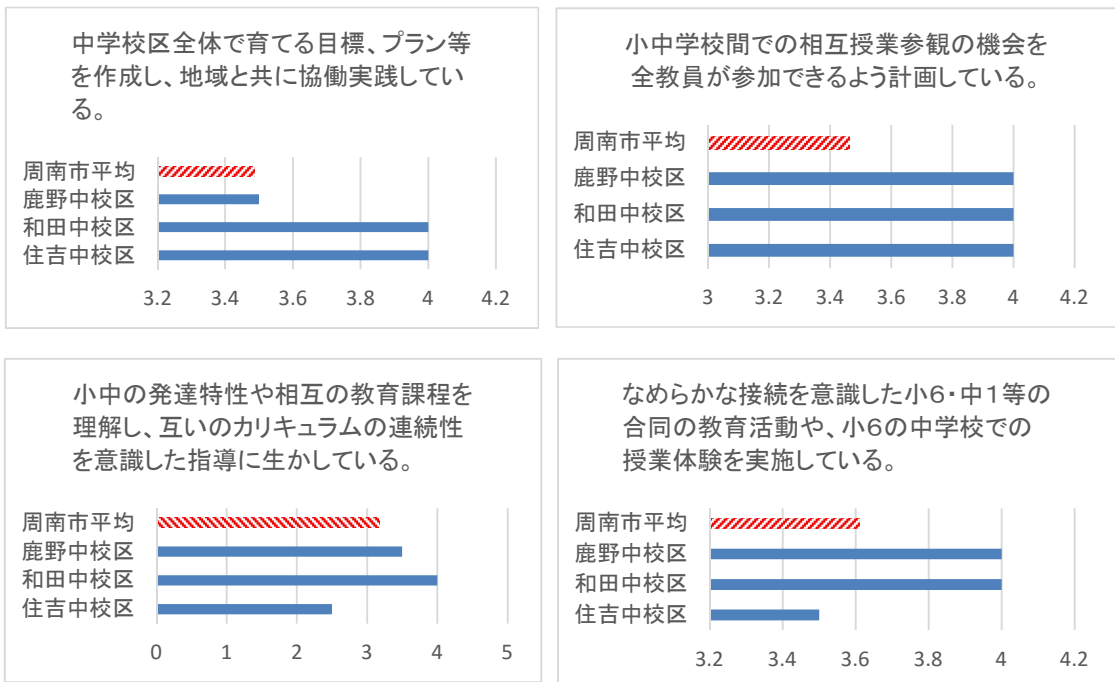


・不登校児童生徒の推移については、和田中学校区及び鹿野中学校区では変化がなかったものの、住吉中学校区では昨年度に比べて不登校児童生徒が半減するという結果[以下のグラフ参照]が得られた。施設分離型の中学校区であるにもかかわらず、乗り入れ授業や清掃活動の共同実施、学習規律の一本化など、中1ギャップの解消に向けて取り組んだ成果が着実に表れてきていると言える。



(2) 教職員の意識調査結果

・小中連携教育推進事業を推進して4年目となる本市では、その成果や課題を探るため、管理職への調査を実施している。その中で、小中一貫教育につながる項目に注目し、市内の平均値とモデル中学校区の値を下記のとおり抜粋した。小中一貫教育推進事業の取組を通して、小中一貫教育に向けた意識の高揚が図られていることが伺える。



(3) モデル中学校区での小中一貫教育の進捗状況

・小中一貫教育の推進に向け、今年度のモデル中学校区で以下の項目すべてにおいて整備が進んだ。

- ① 授業スタイルの緩やかな統一
- ② 小学校段階での基礎学力保障に注力
- ③ 学習・生活規律の設定
- ④ 合同行事の実施
- ⑤ 異学年交流の機会設定
- ⑥ 多様な教職員との関わり
- ⑦ 地域との連携
- ⑧ いじめへの早期対応
- ⑨ 乗り入れ授業の実施
- ⑩ 教職員の兼務発令
- ⑪ 一貫教育コーディネーター役の配置
- ⑫ 校務分掌の合同担当
- ⑬ 事務の共同実施
- ⑭ 小中合同でのコミュニティ・スクール組織の編成

(4) 今後の取組予定

学力・いじめ・不登校・問題行動等の調査結果の向上を目指して、新年度の1学期から周南市小中一貫教育推進協議会の実施や県外視察等を行っていく。平成29年度のモデル校区の取組や変容をリーフレットに記載し啓発することも行う一方で、平成28年度のモデル校区の2年目の取組や児童生徒の変容も併せて市内全域の教職員に広めていくこととしたい。こうした取組を通して、地域と一体となって小中一貫教育を行うことの良さが周南市の全ての学校に伝わり、全小中学校で小中連携・一貫教育を積極的に導入する基盤づくりにつながると考える。

平成28年度 事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－4

1. 市町村教育委員会等の名称 : 山口県萩市教育委員会

| | | |
|---------|---|--------------|
| 住所 | : | 山口県萩市大字江向510 |
| 代表者職・氏名 | : | 教育長 中村哲夫 |

2. 取組の名称 : 萩市小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

萩市立福栄小学校・中学校を教育委員会規則によって「中学校併設型小学校」「小学校併設型中学校」（小中一貫教育校）として指定するとともに、平成28年度から3カ年、一貫教育校のモデル校として定め、研究実践を積み重ねる。その研究実践を検証するとともに、成果や課題を把握し、萩市にある小中併設型の学校8校を3カ年で、すべてその地域の実態に応じた小中一貫教育校として指定していくことをねらいとする。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成28年度）

| | |
|-----|--|
| 4月 | ・小中合同の学校運営協議会において、9カ年の一貫した学校教育目標、育てたい児童・生徒像、教育課程の承認 |
| 5月 | ・全国学力・学習状況調査、確認問題などにおける児童生徒の実態把握 |
| 6月 | ・第1回萩市小中一貫教育推進委員会 ○福栄小中学校の進捗状況について報告 ○各校の現状小中一貫教育に係る現状について |
| 7月 | ・1学期末学校評価の実施－児童生徒・教職員・保護者 |
| 8月 | ・学校評価の分析－PDCAサイクルによる具体的な方策の検討 ・2学期以降の取組、教育課程の確認 |
| 9月 | ・第2回萩市小中一貫教育推進委員会 ○今後の推進委員会としての研修計画 ○各校の一貫教育校への取組報告 |
| 10月 | ・学力定着状況確認問題の実施による児童・生徒の実態把握、PDCAサイクルによる具体的な改善策の実施・小中一貫教育全国サミットへの参加 |
| 11月 | ・第3回小中一貫教育推進委員会 ○佐賀市立北山校 北川校長を招いての研修 ○全国サミットの復伝 |
| 12月 | ・小中一貫教育小規模校サミットへの参加・廿日市立大野学園の訪問 ・2学期末の学校評価－児童生徒、保護者、教職員 |
| 1月 | ・学校評価の分析－PDCAサイクルによる具体的な方策の検討 ・2学期以降の取組、教育課程の確認 |

| | |
|----|---|
| 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・やまぐち小中一貫教育実践発表会 in 萩の開催 ・第4回小中一貫教育推進委員会 –平成29年度の一貫教育校の指定などについて– |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同の学校運営協議会において、9カ年の一貫した学校教育目標、育てたい児童・生徒像、教育課程の承認 |

(3) 取組の成果

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・4回にわたる小中一貫教育推進委員会において、各校の一貫教育校への立ち上げに向けて進捗状況を報告し合ったこと、全国サミット・小規模校サミットへの参加・復伝をしたことは、意味のある研修であった。特に、復伝の中で「今福栄で取り組んでいる方向性は間違っていない。」という報告があり、今後のモチベーションの向上に強くつながった。 |
|--|

(4) 今後の取組予定

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・当初の予定である、平成28年度からの3カ年で小中併設型の7校をすべて一貫教育校に指定する方向で進める。すでに3校の準備がほぼ整っており指定する方針である。また、モデル校である福栄小中学校の取組の一層の深化・充実を図りたい。特に児童生徒がいかに変容したかを一貫教育の成果を検証する。 |
|---|